

熊本地震災害派遣薬剤師・九州ブロック現地活動報告 No.15

平成 28 年 5 月 10 日

- 【派遣日程】 5月1日（日）～5月2日（月）
- 【報告者】 福岡県 田中 泰三
- 【メンバー】 荒木 賢二，長船 優平，榊原 侑子，田中 泰三
- 【派遣先】 益城総合体育館
- 【活動内容】 同班4名、福岡市薬剤師会にて、1日7時30分に集合し、レンタカー1台に同乗後、高速道にて益城空港インター経由で現地対策本部である熊本県薬剤師会館に行った。そこで現地での活動注意事項の指示を受け、益城総合体育館に向かった。
- 現地には日本赤十字社が設置している医療救護所のテントがあり、前任の派遣薬剤師が活動していた。前任から簡単な引き継ぎを受け、テント内で、日赤医療チームと共に救護所に訪れる被災者の療養希望者に対して、医師の処方に応じて調剤し、服薬指導を行った。
- 救護所の薬の在庫管理は薬剤師会チームが行い、在庫表は適時にアップデートされ、それを日赤医療チームへその都度、配布し、処方はその中から選択してもらっていた。また Dr 指示の同一成分同一薬剤は疑義照会なしに調剤した。
- 体調不良の原因が不安、焦燥などから来ているのかもしれないが高齢者や子供の来所者がほとんどだった。

-
- 【派遣日程】 5月3日（火）～5月4日（水）
- 【報告者】 佐賀県 本田 茂樹
- 【メンバー】 松尾 美奈子，青木 孝司，本田 茂樹
- 【派遣先】 益城町保健福祉センター(はびねす) → 御船町観光交流センター
- 【交通状況】 (行き) 有明海沿岸道路→長州町国道501号→熊本県薬(2時間20分)
(帰り) 益城熊本空港 IC→八女 IC→大川→佐賀県薬(1時間45分)
- 【ライフライン】 電気○ ガス○ 水道○
- 【活動内容】 ・避難所アセスメントシート(PhDLSが実習用に作成したもの)を使用し、避難所の概況、環境状況、医療ニーズ、感染症、薬事関連につ

いてチェック。初めての巡回の場合は、次のチームの巡回のための情報収集が重要であり、避難所アセスメントシートは有用であった。

- これまでキャンナスの介入だけであった御船町の避難所の一つである観光交流センターに栄養士2名と帯同し食事の状況、食物アレルギーのチェック、お薬の内容及び服薬状況のチェック、医療機関受診の確認等を行った。避難者の方はすべて高齢者で、14日の前震で体育館に避難して、16日の本震を経験された方々であった。14日の避難の際に薬だけは持って出たという方々ばかりで、内服はきちんとされていた。またかかりつけ医との連携もとれていた。前日のミーティングでは、まだ医療チームが入ってなく心不全で退院されたばかりで糖尿病を合併されている方、疾患の後遺症で片麻痺がある方、食物アレルギーのある方、大腿内側の熱傷患者がいるが処置ができていない方もいらっしやるとの事だったが、状態は安定されていた。1名の熱傷の方は、食物アレルギーの方でもあり、食べられないものが多く栄養不良も懸念された。今回栄養士に介入いただき今後対応をしていただくとと思われる。熱傷の治療は、4月30日に皮膚科受診され、ゲーベンクリームを処方され塗布しているが治癒の方向に向かっていない模様。患部の部分に白く壊死の部分があるようで、次回5/6 が受診予定であるが感染の疑い、栄養不良もあることから早めの受診を提案、午後より日赤医療チームが訪問の予定との事で診察を依頼。

食事の方も、本日からパンなどから自衛隊による炊き出しが始まり、少し改善されると思われるが、食物アレルギー方や心不全の患者がおられることから、継続的な栄養士の介入も必要と思われた。

- 前日のミーティングの際に、血圧計、SP02 測定を借りていったが、キャンナスの看護師たちが血圧測定をされていて、我々はあらたに血圧測定、SP02 測定は行わなかった。
 - 薬の服用状況また確認等の業務以外でも、被災者の方々の話を聴いてあげることが大切で重要なことであると痛感した。毎日の訪問は、必要ないと思われるが、定期的な巡回は必要と思われた。
 - ゴミの処理がスムーズに行われていないことを知り、オムツ以外の物を持ち帰ることを申し出たら、とても喜ばれ、福祉センターの薬剤師ブースのゴミと一緒に佐賀まで持ち帰った。
-

- 【派遣日程】 5月4日（水）～5月5日（木）
- 【報告者】 福岡県 永原 一史
- 【メンバー】 久保 博志, 小野 秀一郎, 本松 弘樹, 永原 一史
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 5/4 飯塚薬剤師会⇒八木山バイパス⇒福岡 IC⇒益城熊本空港 IC⇒益城町総合体育館（約3時間30分）
※益城熊本空港ICまでは渋滞なく進むもICから益城総合体育館までの道中渋滞ひどい。渋滞50分程度
- 5/5 益城町総合体育館⇒益城熊本空港IC⇒福岡IC⇒八木山バイパス⇒飯塚薬剤師会（約3時間）
※渋滞なし
- 【活動内容】 ○4日（処方箋枚数約77枚）
- 7:30 飯塚薬剤師会集合出発
- 11:00 益城町総合体育館到着
全体注意事項の説明（薬剤師班リーダーより）
- 12:00 前班より業務の引き継ぎ 業務開始
- ・日本赤十字災害派遣テント内で調剤業務
日中の患者は少ないが夕食後及び風呂上りから増えてくる 18:00～21:00 まで多い
 - ・業務の流れ
問診時にお薬手帳の持参の有無及び症状確認→診察時には医師の横につき、処方提案（代替薬など提案）→調剤および服薬指導
 - ・インフルエンザ疑いの患者2名受診⇒2名とも陰性
 - ・水疱瘡疑い小児受診⇒小児科専門医不在にて他院へと紹介
⇒その患者さんは水疱瘡だったため、感染防止のため、避難所退所となった。
- 22:00 業務終了、就寝（テント内、車中泊）
- 5日
- 7:00 起床
- 8:50 薬剤師担当より館内放送
熱中症予防、エコノミークラス症候群予防、健康相談（OS-1配布）等の呼びかけ
- ・心臓の悪い方が受診希望の為、テントを訪れるも医師不在の為、診察行えず⇒救急車にて他院紹介搬送となる。
- 9:00 業務開始 調剤業務、発注業務、診療補助業務など前日と同じ
- 12:00 業務引き継ぎ

13:00 益城町総合体育館出発

◆補足事項

- ・車などがなく、かかりつけの病院に受診できない患者への対応が、課題と思われる。
- ・限られた医薬品の中で処方薬を医師に選択してもらう必要があるため、薬剤師の判断やアドバイスが必要であると感じた。またこの非常時だからこそのお薬手帳の重要性を理解してもらい必要もあると感じた。
- ・調剤業務は徐々に減少傾向になるが、その代わりに新しい業務が出てくると思われる。また梅雨時期などを迎え、ノロウイルスなどの感染症対策や熱中症対策などに尽力する必要がある。臨機応変な対応が必要だ。
- ・日中はとにかく暑く、夜中はとにかく寒いため、業務者の体調管理も必要であると感じた。
- ・休日などはボランティアの方が避難所に向かうなど行きがけに渋滞が発生することも想定される為、時間に余裕を持つことも必要か。熊本 IC～益城熊本空港 IC 付近、益城総合体育館手前付近。
- ・虫刺されの人も出てきており、OTC 薬などの配布などによるセルフメディケーションの充実も必要と感じた。

【派遣日程】 5月4日（水）～5月5日（木）

【報告者】 福岡県 岩本 浩

【メンバー】 服部 正典, 大山 竜也, 岩本 浩

【派遣先】 益城保健福祉センター

【交通状況】 車で移動

熊本県薬剤師会まで高速等正常

益城保健福祉センターまで車で移動可能

【ライフライン】 熊本県薬剤師会 正常 近隣も正常 コンビニ レストラン 銭湯 あり

益城保健福祉センター 電気 OK 簡易トイレ 水道なし

【活動内容】 4日14時に佐賀県薬剤師会館をレンタカーにて出発、高速経由で熊本県薬剤師会館に17:30到着し現地の説明を受け、その後益城保健福祉センターに移動して引き継ぎミーティングに参加し19:30に熊本県薬剤師会館戻り当日終了、会館ホールにて宿泊。

5日7:00 益城保健福祉センターに移動ミーティング参加

当日役割分担決定、佐賀県は、センター内での投薬、相談コーナーに2名、センター外のモバイルファーマシーにて調剤1名に当たる、19:30まで調剤業務、終了後、ミーティングを終え現地解散にて佐賀県薬剤師会館に22:00着、報告後帰宅する。

【派遣日程】 5月5日（木）～5月6日（金）

【報告者】 福岡県 橋本 和樹

【メンバー】 平位 昌稔, 安田 晃子, 橋本 和樹

【派遣先】 益城体育館

【交通状況】 ニッポンレンタカー西鉄久留米営業所8時集合、注意事項説明の後、8時15分出発、久留米インターから、益城熊本空港インターで降りて派遣先の益城体育館へ10時10分に到着。

【ライフライン】 電気：○、水道：×（自衛隊から給水車による）

【活動内容】 ○5日の活動 晴天

益城体育館へ10時10分に到着。現地にて薬剤師会ブース責任者から薬剤師支援状況の説明と前日担当者から支援業務の引き継ぎ説明を受ける。当チームの担当業務は、仮設薬局での①健康相談とOTC薬配布（基本の配布は頓服1回分か内服2日間分まで）、②OTC不足分の発注業務、③環境調査の依頼があった。

12時より仮設薬局での健康相談とOTC薬配布相談を行った。

環境調査は、温度・湿度・炭酸ガス濃度・照度・粉じん・騒音について機器を使用して15時、21時に測定した。

20時より責任者会議

20時半より全体会議

21時45分より仮設薬局撤収

22時半 就寝

○6日の活動 雨のち曇天

起床：6時

6時半よりOTC不足分の発注業務

8時より体育館前での食事配布時、避難者へのウエルパスによる手指消毒

8時半より環境調査

9時より仮設薬局での健康相談とOTC薬配布相談を行った。

10時半より当日担当薬剤師への業務引き継ぎ説明

12時より薬剤師会から館内皆さんへの健康情報のアナウンス

12時15分より OTC 不足分を熊本県薬剤師会へ発注

12時30分益城体育館出発、玉名PA経由後、ニッポンレンタカー西鉄久留米営業所に4時到着。

◆考察

環境調査は、避難者の衛生向上に科学的な裏付けができて、他の支援活動者への助言に大変役に立っていると感じた。その環境調査では室温27℃、湿気40%の結果から日中は乾燥気味で仮設薬局に咳・のど痛み・咳・痰症状から15名程が来局された。炭酸ガス濃度・粉じんは基準値高値内ではあるが、体育館での定期的な喚起方法の対策が必要と感じた。発注業務では薬の品目数が多く、思った以上に管理・発注業務が煩雑で時間がとられた。同種薬の整理・品目数の整理が必要と感じた。

全体的な環境面では、薬剤師の指導による手指・トイレ消毒の啓発活動でノロウイルス、食中毒の予防ができていると感じた。今後も私たち薬剤師による環境衛生・精神衛生面からの支援や助言活動を通して協力していく必要性を感じた。

【派遣日程】 5月6日（金）～5月7日（土）

【報告者】 福岡県 高木 淳一

【メンバー】 井上 智博，木太久 要，加留部 信介，高木 淳一

【派遣先】 益城町総合体育館

【活動内容】 ○6日

- ・同日より救護所の開所時間が10:30～20:00となった。
- ・引き継ぎ後、救護所来所患者数44名，処方患者数34名，OTC商品譲渡人数5名
- ・熊本赤十字病院搬送患者1名
- ・新規購入薬剤：エビスタ錠60mg
- ・同日より継続指導対象者リスト記入開始
- ・発熱患者多数のためインフルエンザ検査を行っているが、今のところ全て陰性

○7日

- ・10:30より開所予定だが、9:00すぎより来所患者有（10:30までに13名受付，10名処方有）

- ・かかりつけ病院・薬局の開局状況確認2件有
- ・救護所在庫薬剤リストの更新を行っている。
- ・次班引き継ぎまで救護所来所患者数23名，処方患者数17名

-
- 【派遣日程】 5月6日（金）～5月7日（土）
- 【報告者】 福岡県 堀 泰浩
- 【メンバー】 猪熊 淳，寺中 健太郎，堀 泰浩
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 九州新幹線は時刻表通り運行。熊本県薬からレンタカーで現地に。渋滞あり。約1時間で到着。
- 【ライフライン】 電気は使用できるが水道は復旧の見通しができない状況。ガスは不明。スペースは、かなり狭く厳しい。
- 【活動内容】 日赤チームの調剤、OTCの配布、健康相談、次亜塩素酸でトイレ、手すり、マットの消毒、弁当配給直前の手指ウェルパス消毒。

-
- 【派遣日程】 5月6日（金）～5月7日（土）
- 【報告者】 福岡県 寺中 健太郎
- 【メンバー】 猪熊 淳，堀 泰浩，寺中 健太郎
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 熊本県薬剤師会館から総合体育館まで通行止めの区間があり遠回りしたがやはり渋滞していた。
- 【ライフライン】 水のみ、通っていない。
- 【活動内容】 OTCお渡し、お薬相談、環境測定(気温湿度二酸化炭素粉塵騒音)、武道館内がまだか少なく換気が不十分なのかもしれない。OTCの需要は減ってきているようだ。切り傷、口唇ヘルペス、一包化依頼などがあった。衛生面のためにも水の復旧が望まれる。

-
- 【派遣日程】 5月6日（金）～5月7日（土）
- 【報告者】 福岡県 石田 恭久
- 【メンバー】 末増 千愛，中井 洋介，石田 恭久

- 【派遣先】 益城町体育館
- 【交通状況】 特に混雑なし。高速の益城インターからも問題ないが、益城町内の道路はかなり荒れている。
- 【ライフライン】 問題なし。寝る場所は熊本県薬剤師会館だったが、本部のテントは防寒が必要。
- 【活動内容】 環境測定、OTCブースにて健康相談や巡回業務。統括する本部が大変そうであった。
仮設住宅建設があと一月以上かかるので、避難所内の方々の健康維持管理が必要。
調剤チームが日赤テントに詰めているので、業務はチームによって内容がかなり違う。連休明けでボランティアの人員も減るので継続的な支援が必要。
-

- 【派遣日程】 5月6日（金）～5月7日（土）
- 【報告者】 福岡県 末増 千愛
- 【メンバー】 中井 洋介，石田 恭久，末増 千愛
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 出発地・久留米から派遣地までは渋滞も少なくスムーズに行けた。
震源地付近では道路の陥没や、家屋の倒壊が見られる所があり、引き続き注意は必要。
- 【ライフライン】 派遣地の体育館内は水道は使えなかった。トイレ環境が良くないので次亜塩素酸による消毒の徹底は必須。
- 【活動内容】 主な活動内容は、OTC・健康相談だった。その他敷地内巡回や、場内外アナウンス等行った。健康相談の大まかな流れは、発熱がなくOTCのみで対応できると判断された方は必要最低限のOTCで様子見→改善がなければ受診勧告、発熱や既往歴ある方は救護所に引き渡し、というものだった。また、薬の一包化の依頼もあった。避難者は心身共に疲れていらっしやるので、薬相談だけでなく熱中症やエコノミークラス症候群予防の呼び掛け、患者の話を傾聴するだけでも薬剤師が介入する意義はあると感じた。
-

【派遣日程】 5月7日（土）～5月8日（日）

【報告者】 福岡県 西泊 由紀子

【メンバー】 田中 智行, 谷 諭, 西泊 由紀子

【派遣先】 益城町総合体育館

【活動内容】 ○処方枚数 7日：60枚, 8日：20枚

○業務内容

- ・カルテ指示による調剤・投薬
- ・薬剤師間の業務手順書作成
- ・予製薬作成（カロナール細粒）
- ・代替薬の提案及び対応

エックスフォージ配合錠の空ヒートを持参。処方を希望されるが在庫なく代替薬を提案。患者が代替薬を希望しなかったため、医療機関及び薬局の対応状況を確認し案内した。

- ・医薬品の在庫管理及び発注

ケガや日焼けによる火傷にてリンデロンVG軟膏の処方が続き、在庫が不足となった。発注時期が不明瞭であったため、発注目安を箱に記入した。

医薬品リストを用いて、備蓄庫にある薬剤にマーカーを引き管理を簡略化した。

- ・医薬品の一覧の更新及び医療チームへの提供

発注リストと在庫一覧を比較し、内容の更新を行った。

- ・医療チームへの情報伝達等

小児の投与量の換算や処方薬の提案→診療に立ち会う。

インフルエンザ患者への投薬エビデンスに関して、日赤の薬剤師と話し合う。

- ・OTC希望者の対応

- ・OTC在庫に関する提案

日焼けによる受診が何件かあったため、日焼け後のローション等の在庫を提案

- ・OTC取り扱い一覧を入手し、医療チーム及び患者への情報提供

医師より、テーピングのような固定できるテープの希望があったが、在庫の有無が把握できていなかったため、一覧を入手し回答した。

- ・館内アナウンス及び館外アナウンス担当

救護所の運営時間変更・診療内容に関して

熱中症予防・エコノミー症候群予防の呼びかけ

- ・簡易トイレの取って消毒（ノロウイルスの感染予防）

- ・簡易トイレ前の手指消毒薬の交換（スプレータイプをポンプタイプへ変更）

-
- 【派遣日程】 5月7日（土）～5月8日（日）
- 【報告者】 福岡県 内野 祥宏
- 【メンバー】 矢野 繁則，後藤 康秀，和泉 長文，内野 祥宏
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 車で一時間程度
- 【ライフライン】 益城町総合体育館は水が出ない。自衛隊による給水が行われている。電気は大丈夫。ガスは不明。駐車場は満者。駐車場や競技場等にテントが多数張られている。
- 【活動内容】 益城町総合体育館に熊本県薬剤師会から派遣される。前班より引き継ぎを受ける。自チーム担当の仕事
- ①マットの次亜塩素酸による消毒(二時間おき)
 - ②二酸化炭素、照度、騒音、粉塵の環境測定(1日3回)
 - ③食事前の手指消毒
 - ④ワクワク隊による清掃
 - ⑤巡回、声かけによる避難者の体調確認→状況により受診を促す。
- その他の活動
- ・地震により物が落ちてきて頭が起こせないくらいの頭痛→日赤のブースに連れていき、受診させる。
 - ・回転性のめまいを訴える男性→受診を促す。
 - ・頭痛、胃部不快感、切り傷を訴える男性→OTCを数回分渡した。
 - ・ドライアイを訴える女性→マイティアAを渡した。
 - ・虫刺されで足がかぶれた女性→ムヒアルファを渡して、症状が改善しなければ受診を促した。
 - ・風邪気味の女性→葛根湯2日分、熱冷まシートを渡した。
- また、引き継ぎを円滑にするために引き継ぎの掲示板を新たに作成し、次班に引き継ぎを行った。
- 配給場所が一定ではなく、急に炊き出しが行われる等イレギュラーな事もあるので臨機応変な対応を行った。
- 水が不足しているので、手洗い等が十分に出来ない。消毒液で対応した。

-
- 【派遣日程】 5月7日（土）～5月8日（日）
- 【報告者】 福岡県 森 健司
- 【メンバー】 前間 郁生, 竹内 智洋, 森 健司
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 久留米を8時過ぎに出発、目的地の益城町総合体育館に所要時間1時間20分、道路状況は益城熊本空港インターを降りて幹線道路は混雑もなく道路も支障なく行けたが、益城町に入り道路は所々波をうっている状況で目的地に到着した
- 【ライフライン】 体育館の水道は出てない、電気はきている。
- 【活動内容】 OTC薬の担当
まず、OTCのリストの薬効ごとに整理整頓を行い、OTCに相談に来られた方に対応がスムーズにできるようにした
健康相談の札を首から下げて、被災で休まれている方の近くまで出向き、健康相談を受けたり、必要に応じてOTC薬の交付、傾聴を行った。
-

- 【派遣日程】 5月7日（土）～5月8日（日）
- 【報告者】 福岡県 安中 祐二
- 【メンバー】 高山 幸蔵, 上野 芳嗣, 溝田 尊綱, 矢田部 佑悟, 安中 祐二
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 5/7 飯塚薬剤師会→鳥栖IC→益城熊本空港IC→熊本県薬剤師会
(約2時間30分)
熊本県薬剤師会→益城町総合体育館 (約30分)
5/8 益城町総合体育館→益城熊本空港IC→鳥栖IC→飯塚薬剤師会
(約2時間30分)
- 【ライフライン】 電気あり、ガス不明、水道なし
- 【活動内容】 14名の編成。調剤、消毒清掃・環境検査、OTC対応、お薬相談の4チームに分かれて業務。
調剤は日赤テント内にて10:30～20:00までの診察時間内に対応。
消毒は2時間おきにマットの次亜塩素酸消毒、食事配給時の手指消毒、館内清掃。臨時の炊き出しにも対応。
OTCはブースにてOTC配布及び受診勧告。

お薬相談は巡回による相談対応。

気温が高くなってきているため、今後は熱中症予防・日焼け対策・防虫対策が重要になってくると考えられる。